



WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

2010～2011年度
国際ロータリーのテーマ
地域を育み、大陸をつなぐ
2010～2011年度
RI会長 レイ・クリンギンスミス

創会立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：田中 隆義
事務長：加納 裕
クラブ委員長：梅村 昌孝
例会日：毎週木曜日PM12:30～
会場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1493回例会

～ロータリー世界理解月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2011年2月17日(木) 晴 第30回 2010～2011年度R.I.第2760地区
INTERCITY MEETING
場所：名古屋観光ホテル

司会：石河 隆さん・小島範子さん
点鐘：西村忠郎西名古屋分区ガバナー補佐
斉唱：「君が代」「奉仕の理想」

第一部 式典

歓迎の言葉：西村忠郎西名古屋分区ガバナー補佐



今日は6百数十名の西名古屋分区の方々を中心に、大勢のロータリアンにお越しいただき、誠に有難うございます。また特別出席者として大勢の方々にご出席賜り、心よりお礼申し上げます。

私共のクラブは昨年20周年を迎え、その折も色々お世話になりました。特に私共は名古屋クラブの子ども、孫という立場でございまして、この会場も西名古屋分区として一番相応しいのではということで選ばせていただきました。また昨年7月から8月にかけては、補佐訪問として13クラブを周り、非常な歓待を受けました。これほどまでにクラブの友情、心を感じたのは初めてで、本当に感謝しております。クラブそれぞれに個性があり、その個性をいかに上手く交歓し合うかが大切で、今日の第二部も大きな意味があると思っております。

今日のメインスピーカーは、金美齢さんでございます。昨年11月下旬に大阪の国際会議場で行われた第39回ロータリー研究会でも金さんの講演があり、私は初めてお話を伺ったのですが、非常に迫力があって、しかもテレビとは違ってゆったりとしていらっしゃいました。ぜひご期待いただきたいと思います。

昨年この名古屋地区は、開府400年ということで活況を呈しました。450年前には桶狭間の戦いがあり、織田勢は少数ながら今川勢に打ち勝ちましたが、その折に信長が言ったとされるのが「天の時、地の利、人の和」という孟子の言葉です。中でも人の和が一番大事だと言われております。クラブにおきましても、親睦と奉仕がいつも言われるわけですが、今日の第二部で、クラブ間の親睦、個々の親睦をぜひ深めていただき、ここにいらっしゃる皆さんのお力で盛り上げていただきたいと思います。

挨拶：三浦和人次期ガバナー補佐

皆さんこんにちは。昨日ガバナー補佐の研修として片山次期研修委員長から教育を受けましたが、まだ何もわかりませんので、皆さんから色々ご意見を賜りたいと思います。次期ガバナーとの間で引継ぎがスムーズに行くようがんばって参りたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

次年度I.M.ホストクラブ会長挨拶

名南RC 山本郁矢会長エレクト

2012年にI.M.のホストを務めさせていただきます。本日のように大勢の方にご出席頂ければと思います。高い席からですがお一人でも大勢の方のご出席をお願い申し上げます。挨拶と代えさせていただきます。宜しくお願い致します。

講演「日本再生への提言」：金美齢さん



皆さんこんにちは。今日は「日本再生への提言」ということでお招きいただきました。キーワードは「メイド・イン・ジャパンに回帰」です。このメイド・イン・ジャパンというのは、作られたものに対してだけではなく、目に見えないものにも回帰しなくてはならないということです。それは何かというと「日本人

のメンタリティ」です。日本人が幾代にもわたって残してきた素晴らしいDNA、これをONさせなければなりません。このDNAの「ON」と「OFF」を最初に言ったのは村上和雄先生ですが、その先生の言葉を借りています。日本人が代々受け継いできた、受け継がれてきた、皆さんの中に脈々と伝わっているDNA。それが今なぜかOFFになっていて、日本人としての自信と誇りをもった若者が少なくなっています。

先日、テレビ収録に参加しまして、その中である出演者の方が「尖閣諸島を明け渡しちゃえばいいじゃない。」という主旨の発言をしました。私の隣に座っていた議員の方々が「あそこには大変な資源が埋まっている」と反論すると、彼は、お金を出せば何でも手に入るという彼独特の理屈で「買えばいい」と言いました。では、そのお金はどこから来るのでしょうか。私はもちろんその若者にきちんと反対意見を述べました。NO!と言わなくてはいけないときにはっきりとNO!と言う、YES!と言わなくてはいけないときにはっきりとYES!と言う、それが私達の大人の責任なのです。何をすべきか、一人一人が覚悟して、この地域のために、愛知県全体のために、東海地域のために、日本のために何ができるのか、ということに常に考えて、一人一人が出来ることから始めることを皆さんに実行して欲しいと思います。そうでなければ日本は衰退の一途をたどります。

それにしても、日本の動きや反応が遅過ぎます。会議を重ねるだけで結果的には何も決まらない。愛知県の名古屋市選挙も一体どうなっているのでしょうか。今回大村秀章氏が高得票で県知事になりました。過去に自分の選挙区で当選をしなかったような人が、圧倒的多数で県知事に当選をしたのです。2年前に大村さんに票を入らなかった人が、何故今回彼が県知事に立候補したら票を入れるのでしょうか。知事や市長は日々の行政をしなくてはならないのです。日々の行政というのは実に地道な事柄の積み重ねであるはずで、何故政治家がこんなにもいい加減に選ばれるのでしょうか。

第二部 懇親会

歓迎の言葉：山田靖典名古屋栄RC会長



本日は多数の皆様にご出席をいただき、有難うございました。名古屋栄RCを代表致しまして一言御礼申し上げます。

さて、ロータリー活動におきましても、5大奉仕事業につき、色々問題があるかと思えます。特にCSR=コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティの問題について、職業奉仕との関係をどう考えていくかが、今後の課題かと思えます。これは私の個人的な意見でございますが、ロータリーが只今の金先生のお話のように、留学生の問題、さらにはポリオの問題、識字率向上の問題とともに、社会にいかにかロータリーの存在感を示すかということが課題になるかと思えます。私共は、企業人でもあり、職業人でもありますが、CSRをどう考えていくかは、今後、国際ロータリーとしても考えていただくべき問題だと思えます。それはさておきまして、これだけ多数の方がこの会場にご参集いただきましたことを心から歓迎致します。ロータリーの原点である親睦を深めていただくことをお願い申し上げて、歓迎の挨拶にさせていただきます。本日はどうも有難うございました。

プラスアンサンブル・ロゼ 演奏



閉会挨拶：種村桂介名古屋栄RC副会長

お名残り惜しいですが、いつしか時が過ぎました。本日はお忙しいところ、本当に有難うございます。



出席報告

会員66名 出席43名 (出席計算人数52名)

出席率 78.2%

2月 9日は補填により 93.1%

例会のご案内

■今週の卓話 2月24日(木)

米山奨学生：楽怡さん

テーマ：大切にしたい、その絆

■次週の卓話 3月3日(木)

卓話講師：中国華南理工大学外国語学院

日本語学科准教授 金華さん

テーマ：中国の現状と大学の日本語教育

■次々週行事 3月10日(木) I.D.M.

場所：ヒルトン名古屋4F「桜の間」

時間：18:00～20:00

何事もすぐに可決できるような立派な素質を持った人を世に送り出すのが私達有権者の務めです。パフォーマンスの多い名古屋市長が人気を得ていますが、日頃の積み重ねである行政はどうなっているのでしょうか。しかし、それを問うたメディアはありませんでした。これが今の日本の問題です。

2009年に政権交代が成り立ったときも同じです。皆が喜んで受け入れた「国民の生活第一」というキャッチフレーズがありました。しかし、日本の国が衰退していったら、生活第一は成り立ちますか。国が安定していて豊かであるから、個人の生活も豊かで安定しているのです。そういう政党を与党にしてしまった国民の責任は大いなるものがあります。自民党は確かに情けないですが、戦後60数年、国民がもし自由と民主を大切にしていなかったら今の日本はあるでしょうか。自由と民主というのは時に有権者国民を堕落させます。今の有権者は間違いなく堕落しています。だからこのような無責任な投票行為が次々に起こるのです。メディアの風に吹かれたらその通りの投票を行い、目立っている人に票を入れてしまう。これが自由民主主義のもとで堕落していった有権者です。

実は私が理事長をやっているJET日本語学校は昨年度は赤字でした。校長が自分のボーナスを減らすと申し出ましたが、1年くらい赤字になったくらいでガタガタするな、もし赤字が続くようだったら理事長の私をリストラするよと言いました。例えば小さな組織でも、JET日本語学校を心から愛して、しかもこの学校を守る能力を持っている人がトップでなければならないと私は思います。家庭でも会社でも学校でも国でも、自分が所属している所を心から愛していかなくては行けないのです。愛していないなら次の天地を求めて出て行けばいいのです。そこを心から愛して、しかもそこを守る能力を持っている人を選ばなくては行けない。その能力を付けるためにみんな日々研鑽を重ねているのです。

かつての日本人は、向上心を持ち、商売熱心で、仕事を大切に、約束を大切に、のれんを大切に、名を大切に、和を尊ぶ、何よりも公を考えていました。私達は今、そのような教育をしていますか。大人が日本をどう考えているのかが問われています。皆さんのように、地域を代表する方々が率先して若者達を育てなくてはならないのです。突出したものを認めようとしない、原点主義の社会ではなく、クリエイティブなものにエールを送る、なにかあったときは自分の組織、国側に立って発信する心がかげが必要で、その背中を若者に見せなくては行けません。

メイド・イン・ジャパンに回帰し、地元のものをたくさん買しましょう。自分ができることからやりましょう。小さいことでも大勢の人が少しずつ努力すればとても大きなものになる。お金が使える人はなるべく日本製のものを使いましょう。そして目に見えない「日本のメンタリティ」を回帰させましょう。

謝辞：八神 基I.M.実行委員長

今日の講演に先立つ1年前、このI.M.の開催を計画し、まず金先生にご講演をいただきたいと申し込みしたところ、ご快諾を頂戴しました。本日は先生の若さに圧倒され、居住まいを正して聞き惚れておりました。私共は生まれながらの日本国民であります。先生は自ら選んで日本国民になられたからこそ日本への熱い思い、深さを感じ、私共が日本人として生きてきた長さや深さとが比例しないことを改めて感じました。今日の講演で、自主独立、日本人としてのアイデンティティが非常に大切であると改めて思い直すきっかけをいただいたと思います。この先も先生からお元気で力強い喝をいただけるようお願いしております。

本日は私共の国際ロータリー第2760地区西名古屋分区分のI.M.にお運びをいただいでのご講演、本当にありがとうございました。